

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### 1-1 学生確保の見通し

#### 1-1-1 定員充足の見通し（ニーズ調査による）

科学技術イノベーション研究科の博士課程後期課程においては、先端研究の素養を有する社会人や社会経験を有する修士課程（理系）修了生等を中心に受け入れ、我が国における革新的イノベーション創出という産業界からの期待にも応え得る技術と経営を俯瞰できる人材（科学技術アントレプレナー）を養成し、独立企業家・企業内企業家を輩出することを目指している。そのため、主に入学を希望する学生は、企業において研究開発や新事業の企画立案等に従事する者が対象と想定されることから、企業を対象にアンケートを実施したところ（資料1参照）、今回設定する入学定員の10名は充足する見通しである。

#### 1-1-2 定員充足の根拠となる調査結果の概要（ニーズ調査による）

平成28年12月、企業に対して「神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 博士課程後期課程の設置に関するアンケート」（資料1参照）を実施した。本アンケートは、R&Dを行う企業90社/事業所に送付し、56社/事業所（回収率62.2%）から回答が得られた。

科学技術イノベーション研究科博士課程後期課程が養成する人材とプログラムの内容への興味に関する問いに対しては、「非常に興味深い」は32件（57.1%）、「少し興味がある」は24件（42.9%）、「興味がない」は0件（0%）となり、アンケートに回答したすべての企業が「非常に興味深い」か「少し興味がある」と回答しており、関心の高さが示された。また、社員のスキルアップやキャリア形成等のために科学技術イノベーション研究科の博士課程後期課程に社員を入学させることに関心があるかどうかの問いに対しては、「関心あり」は30件（53.6%）、「現時点ではわからない」は24件（42.8%）、「関心ない」は2件（3.6%）であった。ちなみに、「関心あり」と回答した企業のうち、バイオプロダクション分野に関心があると回答したのは19件（63.3%）、先端膜工学分野は6件（20%）、先端IT分野は18件（60%）、先端医療学分野は15件（50%）であった。

「関心あり」と回答した企業に対して社員の入学可能性について尋ねたところ、「年2名以上」が2件（6.7%）、「年1名程度」は11件（36.7%）、「2年で1名程度」は10件（33.3%）、「3年で1名程度」は7件（23.3%）となり、年平均22名程度の入学希望の可能性があることが示唆された。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### 2-1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

科学技術イノベーション研究科博士課程後期課程では、先端科学技術分野におけるブレークスルーを実現するとともに、それを基にイノベーション・アイデアを自ら創造し、実践レベルでの事業化計画書を作成してイノベーションにつなげる戦略構築ができる、科学技術アントレプレナーの輩出を行うことを目的とする。すなわち、各専門分野において先端研究開発によるイノベーション創出に貢献するとともに、先端科学技術を活用して、既存の企業において新規事業を起こす、あるいはベンチャー企業を設立して社会に大きなインパクトを与えながら活躍できる企業家を養成する。

### 2-2 2-1 が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠（ニーズ調査による）

平成 28 年 12 月に企業を対象に実施した「神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 博士課程後期課程の設置に関するアンケート」（資料 1 参照）において、科学技術イノベーション研究科の博士課程後期課程で養成する人材に対する印象について尋ねたところ、回答を得た 56 社/事業所のすべての企業が「非常に興味深い」もしくは「少しは興味がある」と回答しており、社会的に人材需要があることが示唆された。また、科学技術イノベーション研究科の修了生を就職先として受け入れることに関心があるかという問いに対しても、36 社/事業所（64.3%）が「関心あり」と回答している。企業においては、イノベーション創出のための課題設定と研究デザイン、それを事業化に結び付け、実践できる人材が必要とされており、その養成と人材の供給元として科学技術イノベーション研究科に高い期待を寄せていることが本アンケートから窺えた。

以上のことから、科学技術イノベーション研究科博士課程後期課程が養成する人材像は、社会的な需要の動向を踏まえたものであると言える。

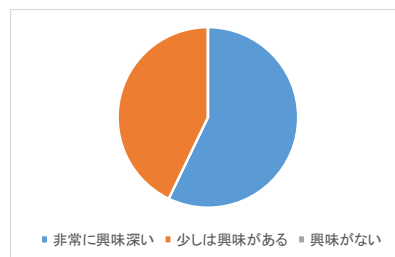
## 企業アンケート

科学技術イノベーション研究科に関連する企業に対して、博士課程後期課程設置に関するアンケート調査を実施。

対象	企業数	回答数	回答率
バイオプロダクション分野に関連の深い企業	47社	29社	61.70%
先端膜工学分野に関連の深い企業	18社	9社	50.00%
先端IT分野に関連の深い企業	15社	12社	80.00%
先端医療学分野に関連の深い企業	10社	6社	60.00%
計	90社	56社	62.93%

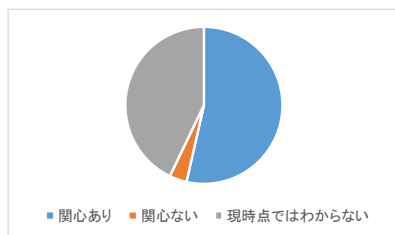
- 「科学技術イノベーション研究科の博士課程後期課程の養成する人材とプログラムの内容について、どのような印象をお持ちになりましたか？」との問いには、すべての企業が興味を示した。

		回答数
1	非常に興味深い	32
2	少しは興味がある	24
3	興味がない	0



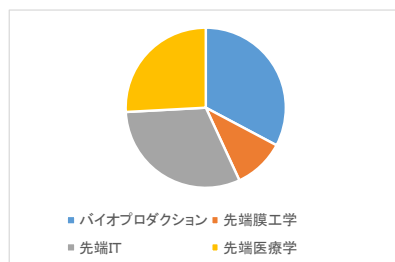
- 【問1において1.又は2.を回答した方に質問致します。】  
 ○ 貴社の社員のスキルアップやキャリア形成等のために、科学技術イノベーション研究科の博士課程後期課程に貴社の社員を入学させることに関心はありますか？との問いには、大半の企業が関心ありと回答した。

		回答数
1	関心あり	30
2	関心ない	2
3	現時点ではわからない	24



- 【問2において1.と回答した方に質問致します。】  
 貴社の社員を入学させるとしたら、どの分野に関心がありますか？【複数回答可】との問いには、すべての分野に関心があることが示された。

		回答数
1	バイオプロダクション	19
2	先端膜工学	6
3	先端IT	18
4	先端医療学	15



- 「貴社の社員の入学の可能性について、何名程度可能性がございますか？」との問いには、年平均22名程度の入学希望の可能性があることが示された。

		回答数
1	年2名以上	2
2	年1名程度	11
3	2年で1名程度	10
4	3年で1名程度	7

- 「本研究科の博士課程では、企業においてイノベーションの創出に取り組む「企業内企業家」も視野に入れて教育を行うこととしております。修了者を就職先として受け入れることに関心はありますか？」との問いには、大半の企業が関心ありと回答した。

		回答数
1	関心あり	36
2	関心ない	0
3	現時点ではわからない	20

